

大豊グループの主力製品のひとつであるバキュームポンプ。新興国での自動車生産が拡大していく中、当社にとって初となる「システム製品の海外現地生産」に取り組むプロジェクトを立ち上げました。今回、生産拡大に携わった担当者から話を聞いてみました。



プロジェクトの概要について教えてください。



経営企画部
石黒 広昭

2011年にバキュームポンプが海外のお客様へ納入することが決まり、プロジェクトチームを立ち上げました。当初は国内で生産する予定でしたが、納期、品質保証、コスト、環境面など、お客様へのメリットを総合的に検討した結果、現地生産で企画を固めることになりました。当時タイには生産スペースがなかったため、新工場建設の企画もスタートすることになりました。

今回のプロジェクトで苦労したことは？

海外拠点のサポートという点で社内体制が万全とは言えず、現地の部品調達や品質保証の体制づくりが一番苦労しました。また、タイ駐在スタッフにとっても初めての経験だったため、手さぐりで業務にあたっていたと思います。

企画面で準備が進み、いよいよ量産となり、現地生産の準備で苦労したことは？



篠原工場
谷名 美勝

今回のプロジェクトでは2人の現地スタッフが半年間、篠原工場で研修してもらいました。当初は手取り足取りで作業手順を教えていましたが、最終的には自分たちで作業手順書を作成できるまで成長しました。やはりコミュニケーションは大事だと実感しました。いっしょに日本食(うどん)を食べに行ったら喜んでくれたのは良い思い出です。

量産開始が近付くと、進捗フォローも忙しかったのでは？

1回/月のフォロー会が、量産開始間際には1回/週になり、現地・各部署との情報共有に苦労しました。バキュームポンプという製品は部品点数の多さから、品質、調達面で確認作業が多かったこともありますね。海外で勝手が分からない状況の中でも、各部機能が遅延なく計画を進めていけるように気を配ってフォローを行いました。



生産管理部
榎原 強史

今後、この経験をどのように職場に活かしますか？

研修生とのやりとりで、「どこまで伝えられるか？伝えられたか？」を考えさせられました。熱意や思いはジェスチャーで通じましたが、作業手順書で伝えられるようにすることが今後の課題だと感じています。

谷名

現地が忙しい状況で業務依頼しなければならない時のコミュニケーションの取り方も良い経験になりました。駐在スタッフとこれほどかかわるのは初めてでしたので、現地で何に困っているのか常に意識するようになりました。

榎原

会社にとって、今後どのような活動が必要ですか？

これからも海外のシステム製品の生産が増えていくと思います。今回のプロジェクトは手さぐりで進めてきた部分もありますが、こうした経験もケーススタディにして次に活かしたいと思います。

石黒



◆タイハウコーポレーション オブタイランド

ASEANにおける第2の生産・販売拠点としてタイに2003年に設立。2014年2月より新工場を建設し、生産拠点としても稼働を開始。

企業成長 と 環境貢献 の両立

このプロジェクトにより、環境対応製品であるバキュームポンプの生産が飛躍的に拡大し、売上高の上昇とともに環境貢献度も増加します。

